

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493600421	事業の開始年月日	平成30年 7月 1日	
		指定年月日	平成30年 7月 1日	
法人名	SOMPOケア株式会社			
事業所名	SOMPOケア そんぼの家GH弥生台			
所在地	(〒245 - 0006) 神奈川県横浜市泉区西が岡1-32-6			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	平成30年12月30日	評価結果 市町村受理日	平成31年4月15日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少し高台にあり周りは住宅地で建物の前は広い畑になっています。静かな環境でゆったりと時間が流れています。相鉄線鶴ヶ峰駅徒歩10分と比較的近距离に同法人運営の「そんぼの家GH西川島」があるため利用者、職員間の交流を図り、双方でサービスの質の向上に努めることが出来ます。
又、ハード面では、各居室にトイレ・洗面台が設置してあり、建物全体が広々とした空間で作られている為、広いリビングで車椅子の方もゆったりとお過ごし頂けます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成31年1月21日	評価機関 評価決定日	平成31年3月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概況】
事業所は相鉄いずみ野線弥生台駅から歩いて10分程の高台にある。事業所近くの散歩コースからは富士山が見えると利用者から好評を得ている。同じSOMPOケアグループの「そんぼの家GH西川島」が隣にある。地域の夏祭りの際に浴衣着付けを西川島の利用者と一緒に行ったり、西川島で行われたボランティアによる演奏会に当事業所の希望者数名が参加している。利用者同士も「お久しぶり」と会話を交わし、馴染みの関係が構築されつつある。

【人間尊重の取り組み】
法人の経営理念である「人間尊重」を経営の基本とし、職員は本社主催の研修を受講している。当事業所では本年度接遇について重視し、利用者との距離が近くなり過ぎず一定の距離を保つように努めている。また身体拘束廃止委員会を定期に開催し、マニュアルをもとに現状の確認と今後のリスクについて検討を繰り返し、言葉使いについても一つひとつ確認している。

【建築面での工夫】
居室内に洗面台とトイレが設置されており、その人のペースでトイレに行くことができ、自立支援に役立っている。また台所流し台がリビングと対面する造りとなっており、職員が料理や配膳をしながら利用者の様子を見守る事が出来る。リビングは窓からの陽ざしが両方向から差し込み、明るく、清潔感を感じる構造である。廊下には座って休める場所があり、落ち着きと温かさを感じる空間づくりの工夫がある。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	SOMPOケア そんぼの家GH弥生台グループホーム
ユニット名	如月

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	SOMPOケア そんぼの家GH弥生台グループホーム
ユニット名	睦月

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲示し、ミーティング時には理念の確認をしている。	事業所独自の理念はない。SOMPOケアグループが目指す姿【経営理念】【行動指針】がユニット入口に掲示してある。ミーティング時には読み合わせを行っている。管理者は「人間尊重」について接遇を特に重視している。利用者との距離感が近くなることもあるので「お客様」であることを徹底している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事へ参加し、ご利用様が地域の一員として生活が送れるよう支援している。又、認知症サポーター養成講座の勉強会会場としてホームを提供したり、認知症家族の会の講習会に講師として参加し、地域での認知症啓発活動にも取り組んでいる。	西が岡第一自治会に加入しており、約800人が参加した地域の防災訓練に本年度より参加した。日常的に散歩の中で地域住民と挨拶する関係もあり、夏祭り、敬老会へ利用者が参加している。原中学校の体験学習の受け入れを行った。コーラス、ハワイアン音楽、フラダンス、手話ダンスのボランティアが来訪している。横浜市新橋地域ケアプラザ、認知症家族の会と連携して認知症サポーター養成講座を開催し、講師も担当した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座の勉強会会場としてホームを提供したり、認知症家族の会の講習会に講師として参加し、認知症啓発活動に取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域からは行事や取り組みなどの情報を提供していただき、外出行事などに役立てています。	年6回開催しており、参加者は民生委員、ケアプラザ職員、自治会役員、利用者本人、管理者である。利用者の声を反映して演奏会の開催に結びついた事例がある。また自治会からはいも煮会等行事への誘いがある。3月の事業所主催の避難訓練には自治会長、民生委員の参加が予定されている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録を区役所に、事故報告書は市役所に郵送している。	市の集団指導講習会には年2回参加している。横浜市グループホーム連絡会に年4回参加しており、その中で市職員と介護保険制度改正について確認している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を開催し、身体拘束にあたる行為を確認し、継続して身体拘束をしないケアが行えるよう取り組んでいます。	ユニット、玄関は施錠していない。ユニットの扉が開いたらチャイムが鳴る工夫がある。現在身体拘束の事例はないが、身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1度開催し、マニュアルをもとに現状の確認、今後のリスクを検討している。特にスピーチロックについては委員会で継続して検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会を開催、虐待の芽チェックリストで確認を行い、虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時には関係者と話し合い、活用が出来るよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず契約書・重要事項説明書を読み上げ、確認をし、不明な点は一つずつ質問に答えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口にて意見を受け付けている。	毎月家族に請求書と共にアンケートはがきを送っている。アンケートは直接本社に行く段取りとなっている。その中で季節ごとの外出行事の要望があり、年間スケジュールを見直し、実行した。ケアプラン更新時には計画作成担当者が面談し、意向を把握している。居室担当制を取り入れ、衣類の確認や清掃の確認等サービスを徹底するように努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや個別面談での意見、意向を確認している。	月1回ユニット毎にミーティングがあり、議事録を作成し、職員に回覧している。特に日々の談笑の中での利用者の生の声を持ち寄り、検討し、より良いケアを目指している。また趣味活動について検討し、囲碁については利用者家族がボランティアとして来所することにつながった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度により、個々の能力や職務態度の評価に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時研修、定例研修を行い、知識、技術の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内で研修会を定期的に行い、サービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学時や事前面談時の聞き取りを行い、ご本人の要望、不安なことを把握し、安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、面談等の時にご家族の聞き取りを行い、不安、要望を把握し、どのような支援が出来るか情報を提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前後は特にご家族と連絡をとり、必要な支援を見極め、社内の他サービスも含めた情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事支援を通じて、主体的な生活が送れるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙で状況報告を行い、一緒に支えていく関係が築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に出かける習慣のあった場所への外出活動を行っている。	友人の来訪があり、居室で湯茶でもてなしている。雑貨品や衣類の購入には社用車を使い、職員が1対1で対応している。美容院への予約電話を管理者と一緒にして、送迎を家族が行っている利用者がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの席配置は同じ趣味や活動をしている方が近くなるよう配慮し、利用者同士の関係性の和が構築できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関わりを必要としている例はないが、退去後にはご様子をうかがう為、連絡をしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族からの聞き取りにより意向を確認し、意向の把握に努め、カンファレンスで共有し、意向に沿った生活が送れるよう支援に努めている。	職員の発案で2階ユニットでは職員が声掛けし、利用者が中心の会議「利用者会議」を開催している。その中で食事についての希望があり、外食につながった。職員はこの「利用者会議」の場や日常のケアの中で、またケアプランの説明時、担当者会議等で、生の声の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居事前面談にて、今までの生活や趣味、仕事、それまでの環境などを確認し、カンファレンスで共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りで情報を共有している。又、カンファレンスでは職員の気づきを話し合い、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護サービス計画を作成するにあたって、ご家族やご本人の意向を反映するよう、密に連絡をとり、カンファレンスで共有し、現状に即した介護計画が作成できるよう努めている。	通常入居時のアセスメントは初回、1ヶ月後、3ヶ月後、6ヶ月後に行う。サービスの実行については「日常生活記録表」に記載している。計画作成担当者は記録表を見て、計画の達成状況を確認している。また、計画更新時のサービス担当者会議では職員がケア方法について活発に意見を交わしている。	入居者ひとり一人のケアの方法については会議で細かく検討しています。職員が計画書のサービス内容とその根拠となる短期目標を理解し、実施状況の確認を確実にできる工夫を希望します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別日常生活記録表に記録することにより、情報を共有でき、毎月のモニタリングを通じてプランの見直しを検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部業者の協力を仰ぎ、ニーズに対応できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加により、地域との交流機会を作り、地域での生活を楽しめるよう支援に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もかかりつけ医への受診を希望される方は、受診して頂いている。協力医療機関にかかれる方は、定期的な診療により、適切な医療を受けられるよう支援している。	協力医療機関の「泉ホームクリニック」から、内科医は月2回、皮膚科医は月1回往診があり、24時間オンコール体制をとっている。歯科医は月1～2回定期検診に来訪している。入居前のかかりつけ医を継続利用している方が2人いる。受診情報、薬の情報は「日常生活記録」に記録し、申し送りノートには注意点を記載している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療時に医師と共に、看護師へご利用書の情報を提供し、適切な看護を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的にお見舞いに伺い、病状などを病院関係者、ご家族に確認し、経過を把握し、退院後のケアやフォローをどのようにすべきか相談をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や状況の変化に応じて医師が看取りについての同意書の説明をし、提供できるケアを管理者より説明している。	職員は本社企画の研修で看取りや救急対応の方法を学んでいる。1月には事業所での研修を管理者が講師となり実施予定である。重度化、終末期を迎えた場合には医師より状態の説明が家族にあり、対応については事業所が説明することになっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し、急変時には確認出来るよう掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練を実施している。今年度は地域の防災訓練にも参加している。3月に予定している避難訓練には町内会長、民生委員が参加予定。	年2回訓練を行っている。9月には夜間想定で消防署も立ち会って実施した。終了後消防署から評価を受け、2階ユニットでは出火場所によりユニット玄関が利用できない場合を想定し、待機場所も検討するようにとの具体的な指導があった。防災備蓄品リストは本社が作成し、食料品、飲料水、米20Kgを常時確保している。また自家発電機の試運転を先月実施した。	地域との連携は事業所として今一番力を入れています。災害対策の場面でも地域の方と連携するための働きかけを期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修や接遇マニュアルの確認を行い、接遇向上に努めている。	記録を取る際には利用者の目に触れないように台所内にある机を利用している。利用者の写真はお便りと共に家族のみに送付する、共有空間にある物品に利用者の氏名を表示する時にはひと文字インシヤルを使う等工夫がある。書類は事務所の鍵付き書庫に保管している。管理者から言葉づかいや声掛けについての研修を受けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者主体の会議を行い、意向を確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活習慣を日常生活記録を通じて共有し、ご本人の生活リズムに沿うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣料品店への外出活動により、好みの衣類が着れるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者がレシピ付きの食材を配達し、職員が調理している。食べたい物の意向を確認し、行事に反映している。又、お手伝いとしては洗い物を中心に行っている。	利用者はテーブル拭き、食器洗い、下膳をしている。献立は利用者会議で意見を聞き取っている。外食の個別対応としては、職員が1対1でファミリーレストラン等に出かけている。1階ではテーブルを3つに分け、利用者の相性や同じ活動をする方同士にする等工夫し、ペースに合わせた食事環境を整えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者がメニューを作り、栄養バランスが考慮されている。日常生活記録により、食事摂取量、水分量を把握し、適切な量が摂取できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医による定期的な診療、日々の口腔ケアにより、口内の清潔保持に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日常生活記録により、排泄パターンの把握に努めている。必要に応じて手摺を設置するなど、環境を整備し、排泄の自立に向けた支援を行っている。	現在入居者の要介護度が低く、オムツ利用の方はおらず、原則全員がトイレを利用している。夜間は排泄記録のパターンに基づいてトイレ誘導を行っている。早番が毎朝トイレ清掃を行っており、ユニット内に臭いもなく、衛生的な環境である。居室のトイレを活かして自立支援を行っており、入居前、漏便があった方が、入居後無くなった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を把握し、適切な水分量が取れるよう支援している。必要時には医師へ相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は原則週2回。3名ずつ午後に実施している。その時の表情や体調により、順番や実施日を変更している。	入浴したくない方には対応する職員や時間を替えて声かけをしている。時には他の利用者が説得してくれる場面もある。風呂は足し湯であるが、浴後には風呂桶、床、排水溝まで清掃、消毒が行われている。ゆず湯やしょうぶ湯を準備し、季節感を味わってもらう工夫をしている。浴室、脱衣室にヒーターやエアコンの設置があり、ヒートショック対策をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家事支援やレクを通じて、日中活動的な生活が送れるよう支援し、夜間気持ちよく眠れるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを用意し、薬の情報を共有できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントにより、生活歴や趣味などを個々に把握し、趣味活動や家事支援を通じて楽しみのある生活が送れるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日には事業所周辺の散歩を行っている。また、四季折々に合わせた外出活動を行っている。	事業所の周りが1周20分程の散歩コースとなっており、途中富士山が見える所でひと休みするのが習慣になっている。道路も整備されており、車椅子利用者にも好評である。散歩、買物、外食は管理者が1対1で付き添って対応している。2月以降はカンファレンス等で職員のシフトを調整し、外出の機会を増やす予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金としてホームで管理し、領収書や残金の明細書をご家族へ郵送している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望された時にはご家族の了承を得た時間にしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は車いすの方でも不自由さを感じないよう広さを保つようになっている。季節の花や飾りを配置し、季節感を感じられるよう工夫している。	リビングは利用者も一緒に床清掃を行っており、清潔に保たれている。時間により換気を行い、加湿器の設置もある。2階ユニットでは日当たりが良い為にバナナの樹を育てている。1階ユニットにはウッドデッキがあり、外気浴や園芸を楽しむスペースが確保されている。廊下には座って休める場所があり、和の雰囲気 が漂い、落ち着いた趣である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	孤独感を感じないよう席の配置を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた家具類をお持ちいただき、安心感を感じられるよう工夫している。	事業所でエアコン、照明、ロッカー、カーテン、障子の準備があり、自宅から使い慣れたチェストやベッドを持ち込んでいる方が多い。家族の写真を飾っている方もいる。各室にトイレと洗面台が設置されており、自分のペースでトイレ利用ができる。居室はトイレを含めて清掃が行き届いている。布団干しやシーツ交換はチェック表があり、職員が実施し、確認している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室には手すりを設置し、安全に移動が出来るよう配慮している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

SOMP0ケア そんなにの家庭介護生活グループホーム 四月・五月

作成日

平成31年4月8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	18 20 23 24 25 26 48	個別支援の増加により、その人らしい生活が送れる。	それぞれの趣向、生活歴を考慮し、楽しく皆様が過ごしやすく生活が送れる。	アセスメントし、申し送り、定例会議にて各ご利用者様への支援を再度検討する。	3ヶ月
2	25 26 27	介護計画の実施状況の確実な確認が出来る。	職員が介護計画の内容と根拠を理解し、実施状況の確認が出来る記録を行う。	介護計画書のサービス内容と日常の生活記録表の内容をリンクし、実施状況が確認出来るようにする。	3ヶ月
3	2 3 29	地域交流が少なく、地域の方が事業所に足を運ぶことが少ない。	ホームが地域の一員として交流が図れる。	運営推進会議による地域へホームの取り組みの発信を継続する。散歩や外出活動時に地域の方への挨拶を積極的に行う。地域の方たちも参加が出来るホーム行事を開催する。	6ヶ月
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。